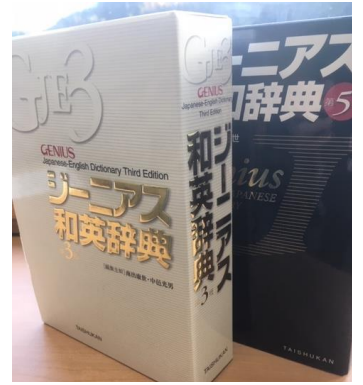


夢創造

▶本年度も村チャリティ・イーゴルフ大会の益金からの寄付があり、教室備えの和英辞典等の図書を購入しました。ありがとうございました。（村広報二月号掲載）



平成31年2月14日（木）no.30 文責：上田

いよいよ学年末、取組の佳境です

いよいよ2月も中旬。9年生では、私立専願や熊本・大分県公立前期受験の結果（内定）も続々と届いていますし、これからの受験に気を引き締めている生徒もいます。3月の卒業後の高校生活に大きな希望を膨らませているようです。

さて、2月から3月にかけて学園では学年末の取組の充実を図っています。先週配付の県学力調査結果の分析に基づく学習指導はもちろんですが、学年・学期に子どもたちが立てた目標の達成にも邁進しているところです。また、現在、ご家庭に依頼している学校評価（保護者）アンケートで明かになった課題にも積極的に取り組んで参ります。今月23日の授業参観・PTA 総会・学級懇談会でも取組の一端を感じていただきたいと思います。ご多用かと思いますが、来校をお待ちしています。

生徒会役員・専門委員長の抱負

先月から生徒会役員・専門委員長を中心とした生徒会活動が始まったことはホームページ等でもお知らせしているところです。今回は生徒会役員・専門委員長の抱負を紹介します。

【生徒会長として】 工藤 心悟 （生徒会長）

僕がこの一年でがんばりたいことは二つあります。一つ目は、社会貢献です。例えば、ペットボトルキャップ集めです。現在も行われていますが、それをする意味まで知ってもらふ活動をしたいです。二つ目は、生徒会をまとめていくことです。各委員会や先生とコミュニケーションをとって連携をとっていきます。これらのことをして生徒会長として学園をよりよくしていきます。

【特徴を生かす】 森本 清斗 （生徒会副会長）

僕の抱負は、産山学園の特徴を生かした取組をすることです。うぶやま学やヒゴタイ交流、ICTが盛んなところなどの特徴があります。それらを生かした取組として、例えば、タブレットを活用する機会も増やすことです。ICT を使っておくと自分たちの将来にも必ず役立つと思ったからです。また、ICT に興味を持つことも大切なことからです。しっかりと副会長としての自覚を持ち、精一杯がんばります。よろしくお願いします。

【社会や地域に貢献する】 酒井 陽光 （生徒会副会長）

僕は、執行部で社会や地域に貢献できるような活動に取り組みたいと思っています。産山学園ではペットボトルを集めて寄付する活動を行っています。しかし、最近、その活動に取り組みむ人が減ってきていることを知りました。そこで、キャップが次に何になり、どこに届き、誰を助けるのかを知ってもらいます。そうすることで、今まで分からなかったことがなくなり、どのように人の役に立っているのか意識して活動できると思います。他にも募金活動など新しいことを各専門委員会と協力しながら取り組みたいです。

【勇気ある一歩へ】 井 千拓 （生徒会書記）

私の今年度の目標は、学園生一人一人の積極性を高めることです。積極性を高めることで、みんなが楽しいと思える場所にしていき、他の学校や地域のみなさんに誇りを持って学園の良さをアピールできるような場所にもしていきたいです。そのために、私は小学部・中学部合同の行事を増

やすことを考えています。また、学園生の意見にしっかりと耳をかたむけていきたいです。これから学園と共に成長し、貢献できるように精一杯頑張っていきたいです。

【社会貢献をするために】 井 晴樹 （生徒会書記）

私が生徒会執行部として取り組みたいことは社会貢献です。今、私たち学園生が活動していることはガードレール清掃、ペットボトルキャップ集めなどです。今行っている活動がどのような社会貢献になっているのかを改めて考える機会になると思います。また、学園生全員が意味を分かって活動しないと何のためにやっているのかも分からなくなる人も出てくると思います。自分たちが社会貢献の意味をきちんと理解できるようにして学園生に教えていけたらと思います。

【学校の景観を守る】 宮川 隼哉 （環境・放送委員長）

僕が環境・放送委員長として取り組みたいことは、新しくなった学校の景観を保つことです。産山学園は、産山村の中心部で村役場の近くに位置しているので、多くの人が見かけます。また、地域からの来賓の方も学校に来られます。そんな時に「この学校はきれいだ」と思ってもらうことで学園だけでなく村として見てもらうことができるので取り組んでいきたいと思いました。そのために、月に一回掃除時間をのばすなど、様々な案を出していきたいです。

【よりよい学園へ】 牧 朋希 （生活・体育委員長）

僕が委員長となって取り組みたいことは、体力向上のうえ楽しく小・中合同で遊べる企画を作っていきたいと思います。例えば、リレーなどの危なくないスポーツです。リレーは小・中と分けなくても短時間で終わり、けがもでにくいスポーツだと思います。次は、立ち止まってあいさつができるような学園を作っていきたいと思います。そのために先生が見えて10m 手前ぐらいで立ち止まり、それからあいさつをするというような分かりやすい説明をして立ち止まってのあいさつがみんなができるように取り組みたいです。

【学園生への願いと自分自身の決意】 島村 舞 （学習・図書委員長）

私が学習・図書委員長として取り組みたいことは、皆さんに本に興味を持ってもらい。図書室利用者数を増やす活動です。例えば、週に一・二回朝読書をし、感想を周りと交流したり、学園生全員がお気に入りの本の絵や内容を書き、図書室に展示したりすることです。学習面では、テスト前の勉強方法例の紹介や勉強計画づくり、朝自習の徹底などもしていきたいです。みんなに本をすきになってもらい、また進んで学習していけるようにしたいです。

【学園生、かせ予防運動】 井 悠真 （保健・給食委員長）

私が保健・給食委員長になって取り組みたいことは学園生かせ予防運動です。この取組の目的は、その名の通りかせを予防するということです。手洗い・うがい・マスクの着用はもちろん、食生活の見直し、爪切り・ハンカチチェック、昨夜何時に寝たかなどもチェックしていきたいです。全て大事なことです、この中でも食生活の見直しをメインにしていきたいです。体調不良をなくすことで、授業に参加でき、授業に集中して取り組めると思います。

“小4ビハインド”とは？ 県学力調査の考察から

算数・数学の学習では、5・6年の分数、割合、速さなど、中学に入ると正負の数、方程式などがあり、小学校高学年から中学校にかけてのこの時期に子どもたちは算数・数学の難しさを感じるようです。ですが、学習内容から考えると、算数・数学を学ぶうえで最も大切な時期は小学4年までの時期だといえることができます。算数・数学の基礎基本の多くが小学4年までに集約されているからです。

小学2年でかけ算九九を学習します。小学5年で習う分数の $\frac{3}{8} + \frac{1}{6}$ の計算で最小公倍数の24ではなく（分母どうしをかけて）48で通分する子もいますが、 $8 \times 6 = 46$ とかけ算九九が不確かでは正解にはあたりません。

小4ビハインドとは、小学4年までの基礎基本が身につけていないことによる学習のつまずきのことです。かけ算九九もそうですが、家庭学習でも確かなものとして身につけさせたい内容です。